

# 「東電」福島原発事故 市民の不安解消へ努力を

日本共産党粕江市議会議員  
鈴木えつおの市議会報告



発行：日本共産党粕江市議団 2011年8月  
第85号 鈴木えつお議員の活動を紹介します。



駒井保育園の改築完成予想図

駒井保育園6園は今年度から5年計画で順次耐震化が進められます。駒井保育園(駒井町2丁目)は来年度改築予定で、その基本設計がまとまりました。

今年度、実施設計が行われていますが、その中で、待機児解消に向け10名ほどの定員増が検討されています。



## 駒井保育園、来年度改築へ



第2回定例会で質問しました。

## 第2回定例会 鈴木えつおの一般質問

放射線量の測定促進を  
市「学校や保育園など17カ所測定する」

## 放射線量の測定促進を 市「学校や保育園など17カ所測定する」

私は、こうした声を紹介し市として放射線量の測定を積極的に進めたい。市民に分かりやすく公表するよう求めました。

## 原発から撤退、国に要請を

### 矢野市長「原発から段階的に撤退すべき」

また私は、「原発事故は原子力発電の技術が未成熟なものであることを明らかにした。莫大な放射性物質を含んだ使用済み核燃料が全国で1万3530tも貯蔵されている。もはや原発からの撤退を断念すべき時期に来ている」として、市としても原発からの撤退と自然エネルギーの利用の

促進を、政府や電力会社に要請してほしいと求めました。これに対し矢野市長は、「自然エネルギーへの転換を急ぎ、それと並行し、期限を切って原発から段階的計画的な撤退をしていくべき」と答えました。

日本共産党は、原発からの撤退を求める国会請願署

小中学校10校、保育園6園、市役所の17カ所を測定する。観測数値は早いうちにホームページで公表する。その後も、

しばらく市役所前で一週間間隔で定点観測していく。」「測定された放射線量をどう見るかという目安については、都の健康安全研究センター等とも連携をとっていきたい」と答えました。

## 六小の太陽光発電を見学

### 学校の電気使用量の20%を発電

昨年9月に三小と六小に20kwの太陽光パネルが設置されました。六小では10月からは4月までの7か月間で1万5277kwh、学



校の使用電力量の20・6%を発電しました。三小でも19・5%を発電しました。5月には、私、鈴木えつおも参加している「エネルギーワーキンググループ」(市と協働で省エネと自然エネルギー利用をすすめている)が六小を訪問、釜坂映子副校長先生の案内で、校舎屋上の太陽光発電パネルや一階入り口の発電状況などを表示するモニターを見学しました(写真)。

## 自然エネルギー導入促進を

### 市「保育園や庁舎改修等、計画を検討する」

私は、この夏の節電対策や公共施設や一般住宅での自然エネルギーの利用の促進についてもいただきました。

総務部長は、「本年度は、これまで設置してきた(太陽光発電など)環境設備の効果を検証する。駒井保育園や駄倉保育園、市庁舎の耐震改修や防災センターの整備等、今後の施設整備について、それを参考に計画を検討していきたい」と答えました。